

明大軽音 第32回定期演奏会開催のいきさつ

定演エピソード

高橋 芳郎(旧姓II三上)(1955年卒/BS)

卒業して17年と数か月、突然忘れかけていた(?)軽音の仲間から電話があった。「定演を中止したこと憶えている?」「このひと」ことが、私の記憶の奥の奥のその隅隅にかすかに残っていたものを呼びました。

懐かしさのあまりこの原稿を快く(?)引き受けたものの、全く思い出せずに数日が過ぎていった。しばらくして再度連絡を受け、当時の意見書とチラシを持っていく人がいたという。世の中には貴重な人がいるもので、早速コンニチを受け取った。

私の直筆であった。
懐かしく読んで見えたものの、それに至った経過、後輩達への引き継ぎなどやはりあまり思い出すことが出来なかった。従ってわずかな記憶と意見書から察するところにより当時を振り返って書きとめておくことにする。

師弟食堂の片隅の、古いジメジメしたところが軽音の部室であった。楽器置き場兼練習場であり、そこに6グル

ープが同居していた。

大教室練習の割り当てもあったが、練習場所の確保はとも満足はいいくものではなく、表面上はともかく内心では同居への不満は各グループでもあったはずである。さらに当時(?)は貧乏学生が主メンバーで、かつまじめにバイトをやっている者も少なく、部費やチケット代の滞納者も珍しくはなかった。(卒業までにはきちんとたいておりますので念のため)

従って定演は(1)チケット代の負担(2)4年間出演出来ない者もいるの2点から見直しをしたいという気風は高まっていた。

1978年フルバンプが、六大学ビッグバンドコンサートの幹事校となり、それまでの7月開催から9月開催になり、夏の合宿を単独でやることになったこと、ダンモが初のリサイタルを開催することになったこと、この2つの出来事が引き金になり、E年となって幹部となった我々は、思い切った行動に出たので



各バンドごとに話し合い、意見を持ち寄った結果、とりあえず金銭的負担を軽くして、継続しよう。予想どおりの意見が大半であった。

「舞台祭にぶつけようか」明確な結論が出た。

かくして、1978年第32回定期演奏会は、1978年11月2日(木)舞台祭の前夜祭、本校95番教室で質素にしかし楽しく開催された。

会場はともかくP.A.照明関係はそれなりの準備をした様な気がする。その時どれだけのOBがきて、かつどんな意見があったかは全く記憶に

ない。ましてやこの結果をふまえて今後の定演についてどうするのかの結論を出した憶えもない。今にして思うと、ただ既成事実を作っただけだったかなという気がする。確か翌年は、舞台祭ではなかったが、記念館で開催されたような気がする。だが、明確ではない。しかし、当時の選択としては良かったのではないかと思います。

最後に私自身正直なところOB会活動にも参加しておりませんが、OBの皆さん「金は出すが、口は出さない」の精神で現役メンバーを応援していきましよう。



コンサート、パーティー、また講習会等に、御希望のミュージシャン、芸能人、各講師、モデル等をコーディネート致します。

Casting 有限会社「ジェラン」

やな が わ じん
代表取締役 梁川 仁 (S46年卒/BS)